

都における医師確保の現状

分娩取扱医師偏在指標・小児科医師偏在指標

【分娩取扱医師偏在指標の算出方法】

厚生労働省作成資料を加工

分娩取扱医師偏在指標 =
$$\frac{\text{標準化分娩取扱医師数}^{※1}}{\text{分娩件数}^{※2} \div 1000\text{件}}$$

標準化分娩取扱医師数^(※1) =
$$\frac{\sum (\text{性・年齢階級別医師数} \times \text{性・年齢階級別平均労働時})}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

【指標作成に用いるデータ】

※1	分娩取扱医師数	・ 医師・歯科医師・薬剤師統計（2024年）
	※1-1 標準化分娩取扱医師数	・ 下記の「分娩取扱医師数」に「労働時間調整係数」を乗じた数値。
	※1-2 分娩取扱医師数	・ 医師・歯科医師・薬剤師統計（2024年） 12月31日現在の医療施設（病院及び診療所）従事医師数（常勤＋非常勤）に、厚生労働省医政局地域医療計画課・医事課が令和8年に実施した個別調査結果を反映した医師数のうち、分娩を取り扱っており、かつ主たる診療科の「産婦人科」、「産科」、「婦人科」のいずれかに従事している医師数（性・年齢階級別に独自集計）。
	※1-3 労働時間調整係数	・ 令和4年7月「医師の勤務環境把握に関する調査」(研究班・厚生労働省医政局医事課)より、医療施設従事医師の性・年齢階級別の平均労働時間（主たる勤務先以外における労働時間を含む）を算出。当該地域の労働時間調整係数＝ $\sum (\text{当該地域の性・年齢階級別医療施設従事医師数} \times \text{性・年齢階級別医師の平均労働時間数} \div \text{全医師の平均労働時間数}) \div \text{当該地域の医療施設従事医師数}$
	※1-4 診療所従事医師数割合	・ 医師・歯科医師・薬剤師統計（2024年） 12月31日現在の医療施設（病院及び診療所）従事医師数（常勤＋非常勤）に占める診療所の従事医師数割合。
※2	分娩件数	・ 医療施設調査（2023年） 病院票及び一般診療所票の「分娩（正常分娩を含む）」の9月中の実施件数。
	※2-1 年間調整後分娩件数	・ 人口動態調査の出生数から（2023年1月～12月）、9月の一あたり出生数を年間の一あたり出生数で除した「9月の出生調整係数（1.032）」を求めたのち、以下の方法で年間の分娩件数を算出。 年間調整後分娩件数＝ $(9\text{月中の分娩件数} \div 30 \times 365) \div 9\text{月の出生調整係数}$
	※2-2 診療所分娩件数割合	・ 医療施設調査（2023年） 病院票及び一般診療所票の「分娩（正常分娩を含む）」の9月中の実施件数に占める一般診療所の分娩件数割合。

都における医師確保の現状 分娩取扱医師偏在指標

○東京都は令和6年1月時点で全国1位であったが、令和8年4月時点で全国6位となっている。

都道府県別 分娩取扱医師偏在指標

都道府県名	R0601		R0804		順位差
	分娩取扱医師 偏在指標	順位	分娩取扱医師偏 在指標	順位	
26 京都府	13.93	2	19.36	1	1
31 鳥取県	13.48	3	17.64	2	1
17 石川県	10.79	16	16.56	3	13
06 山形県	9.93	27	16.28	4	23
19 山梨県	12.19	8	15.64	5	3
13 東京都	14.27	1	15.24	6	-5
04 宮城県	9.96	26	15.21	7	19
27 大阪府	11.81	9	15.09	8	1
16 富山県	10.84	14	14.59	9	5
24 三重県	10.79	15	14.23	10	5
29 奈良県	12.50	6	14.06	11	-5
14 神奈川県	10.87	13	14.01	12	1
03 岩手県	8.02	45	13.94	13	32
09 栃木県	10.26	22	13.91	14	8
44 大分県	10.24	23	13.69	15	8
08 茨城県	9.85	28	13.65	16	12
02 青森県	8.30	43	13.61	17	26
01 北海道	10.11	25	13.59	18	7
30 和歌山県	9.56	30	13.51	19	11
21 岐阜県	9.46	33	13.44	20	13
32 島根県	11.50	11	13.43	21	-10
18 福井県	12.68	5	13.40	22	-17
46 鹿児島県	9.27	35	13.35	23	12
33 岡山県	10.29	19	13.35	24	-5

都道府県名	R0601		R0804		順位差
	分娩取扱医師 偏在指標	順位	分娩取扱医師偏 在指標	順位	
28 兵庫県	9.53	32	13.32	25	7
38 愛媛県	8.88	39	13.31	26	13
10 群馬県	9.15	37	13.19	27	10
42 長崎県	10.55	17	13.05	28	-11
22 静岡県	9.84	29	12.68	29	0
35 山口県	9.55	31	12.61	30	1
05 秋田県	12.80	4	12.53	31	-27
23 愛知県	10.27	21	12.44	32	-11
40 福岡県	11.05	12	12.43	33	-21
20 長野県	9.24	36	12.38	34	2
12 千葉県	9.41	34	12.35	35	-1
37 香川県	8.59	42	12.24	36	6
25 滋賀県	10.28	20	12.18	37	-17
45 宮崎県	8.99	38	11.99	38	0
36 徳島県	12.45	7	11.95	39	-32
41 佐賀県	10.35	18	11.79	40	-22
34 広島県	8.65	41	11.78	41	0
47 沖縄県	11.62	10	11.78	42	-32
39 高知県	10.22	24	11.67	43	-19
15 新潟県	8.73	40	11.64	44	-4
11 埼玉県	8.19	44	11.01	45	-1
07 福島県	7.33	46	10.89	46	0
43 熊本県	6.76	47	7.87	47	0

都における医師確保の現状 分娩取扱医師偏在指標

○都内周産期医療圏では、島しょが全国1位で、区東北部及び区西南部が全国下位となる。

周産期医療圏別 分娩取扱医師偏在指標

都道府県名	圏域名	R0601		R0804		順位差
		分娩取扱医師 偏在指標	順位	分娩取扱医師偏 在指標	順位	
東京都	島しょ	89.90	1	161.84	1	0
島根県	隠岐	35.30	3	89.98	2	1
長崎県	上五島	17.93	16	80.04	3	13
千葉県	安房	19.25	12	64.64	4	8
岡山県	高梁・新見	12.88	48	63.59	5	43
長野県	木曽	23.45	7	57.91	6	1
京都府	丹後	15.23	33	54.49	7	26
熊本県	天草圏域	6.95	207	42.52	8	199
青森県	津軽地域	15.59	30	39.80	9	21
北海道	遠紋	22.66	9	37.01	10	-1
東京都	区中央部	32.55	5	32.05	13	-8
東京都	区西部	19.10	13	31.73	15	-2
東京都	区南部	18.03	15	22.11	24	-9
東京都	区西北部	11.37	80	21.59	28	52
東京都	区東部	9.72	112	14.43	94	18
東京都	多摩	10.30	97	13.19	120	-23
東京都	区東北部	8.01	167	10.64	177	-10
埼玉県	利根	5.24	243	5.50	247	-4
秋田県	県北	9.54	114	5.14	248	-134
東京都	区西南部	11.35	81	4.85	249	-168
佐賀県	西部	4.42	248	4.78	250	-2
新潟県	下越	7.59	182	4.55	251	-69
熊本県	球磨圏域	4.07	251	3.69	252	-1
滋賀県	湖東・湖北	7.29	195	2.85	253	-58
石川県	能登北部	4.37	249	0.00	254	-5
北海道	留萌	1.24	257	0.00	254	3
北海道	日高	0.00	258	0.00	254	4

上位10位

上位1/3

下位10位

下位1/3

都における医師確保の現状 分娩取扱医師偏在指標

○分娩取扱医師偏在指標の計算要素から分析すると、分娩取扱医師数(B)、分娩件数(C)により変動がみられる。

周産期医療圏別
分娩取扱医師
偏在指標
(計算要素分析)

都道府県名	圏域名	時点	順位	順位変動 ※プラス⇒ 順位が上がる	ポジション	A=B÷C		B		C	
						分娩取扱医師 偏在指標	変動率	標準化分娩 取扱医師数 (人)	変動率	分娩件数 (千件)	変動率
13 東京都	13101 区中央部	R0601	5		上位	32.55		357.42		10.98	
13 東京都	13101 区中央部	R0804	13	-8	上位	32.05	98%	315.85	88%	9.85	90%
13 東京都	13102 区南部	R0601	15		上位	18.03		98.69		5.47	
13 東京都	13102 区南部	R0804	24	-9	上位	22.11	123%	107.89	109%	4.88	89%
13 東京都	13103 区西南部	R0601	81		上位	11.35		122.10		10.76	
13 東京都	13103 区西南部	R0804	249	-168	下位	4.85	43%	119.54	98%	24.62	229%
13 東京都	13104 区西部	R0601	13		上位	19.10		173.08		9.06	
13 東京都	13104 区西部	R0804	15	-2	上位	31.73	166%	175.43	101%	5.53	61%
13 東京都	13105 区西北部	R0601	80		上位	11.37		133.37		11.73	
13 東京都	13105 区西北部	R0804	28	52	上位	21.59	190%	144.07	108%	6.67	57%
13 東京都	13106 区東北部	R0601	167		中位	8.01		59.12		7.38	
13 東京都	13106 区東北部	R0804	177	-10	下位	10.64	133%	70.84	120%	6.66	90%
13 東京都	13107 区東部	R0601	112		中位	9.72		98.18		10.10	
13 東京都	13107 区東部	R0804	94	18	中位	14.43	148%	104.78	107%	7.26	72%
13 東京都	13108 多摩	R0601	97		中位	10.30		283.51		27.54	
13 東京都	13108 多摩	R0804	120	-23	中位	13.19	128%	269.91	95%	20.46	74%
13 東京都	13109 島しょ	R0601	1		上位	89.90		2.08		0.02	
13 東京都	13109 島しょ	R0804	1	0	上位	161.84	180%	1.91	92%	0.01	51%

【小児科医師偏在指標の算出方法】

厚生労働省作成資料を加工

$$\text{小児科医師偏在指標} = \frac{\text{標準化小児科医師数}^{(\ast 1)}}{\text{地域の年少人口 (10万人)} \times \text{地域の標準化受療率比}^{(\ast 2)}}$$

$$\text{標準化小児科医師数}^{(\ast 1)} = \sum \left(\text{性・年齢階級別小児科医師数} \times \text{性・年齢階級別労働時間比} \right)$$

$$\text{地域の期待受療率}^{(\ast 3)} = \frac{\text{地域の入院医療需要}^{(\ast 4)} + \text{地域の無床診療所医療需要}^{(\ast 5)}}{\text{地域の年少人口 (10万人)}}$$

$$\text{地域の標準化受療率比}^{(\ast 2)} = \frac{\text{地域の期待受療率}^{(\ast 3)}}{\text{全国の期待受療率}}$$

$$\begin{aligned} \text{地域の入院医療需要}^{(\ast 4)} \\ (\text{流出入調整係数反映}) \end{aligned} = \sum \left(\text{全国の性・年齢階級別入院受療率} \times \text{地域の性・年齢階級別年少人口} \right) \times \text{地域の入院患者流出入調整係数}$$

$$\begin{aligned} \text{地域の無床診療所医療需要}^{(\ast 5)} \\ (\text{流出入調整係数反映}) \end{aligned} = \sum \left(\text{全国の性・年齢階級別無床診療所受療率} \times \text{地域の性・年齢階級別年少人口} \right) \times \text{無床診療所医療医師需要度} \times \text{地域の無床診療所患者流出入調整係数}$$

【指標作成に用いるデータ】

厚生労働省作成資料を加工

《患者等の流出入に係る小児科医師偏在指標再計算データ》	
入院患者流出入調整係数	・各都道府県から報告された入院患者流入数・流出数、及び地域の入院患者総数に基づいて、以下の方法で算出。 入院患者流出入調整係数 = $1 + \frac{\text{地域の入院患者流入数（千人）} - \text{地域の入院患者流出数（千人）}}{\text{地域の入院患者総数（千人）}}$
無床診療所患者流出入調整係数	・各都道府県から報告された地域の無床診療所患者流入数・流出数、及び地域の無床診療所患者総数に基づいて、以下の方法で算出。 無床診療所患者流出入調整係数 = $1 + \frac{\text{地域の無床診療所患者流入数（千人）} - \text{地域の無床診療所患者流出数（千人）}}{\text{地域の無床診療所患者総数（千人）}}$
《小児科医師偏在指標関連データ》	
小児科医師数	・医師・歯科医師・薬剤師統計（2024年）12月31日現在の医療施設（病院及び診療所）従事医師数に、厚生労働省医政局地域医療計画課・医事課が令和8年に実施した個別調査結果を反映した医師数のうち、主たる診療科を小児科とする医師数（性・年齢階級別）。主たる従事先・従たる従事先の小児医療圏が異なる場合は、主たる従事先の小児医療圏において0.8人、従たる従事先の小児医療圏において0.2人と換算。
労働時間比	・令和4年7月「医師の勤務環境把握に関する調査」(研究班・厚生労働省医政局医事課)より、医療施設従事医師の性・年齢階級別の平均労働時間（主たる勤務先以外における労働時間を含む）を算出。
年少人口	・住民基本台帳人口（2025年） 2025年1月1日現在の人口（外国人含む、性・年齢階級別の人口）。
入院受療率	・患者調査（2023年） 全国の性・年齢階級別入院患者数 住民基本台帳人口（2025年1月1日時点）の性・年齢階級別人口を用いて以下の方法で算出。 全国の性・年齢階級別の入院受療率 = $\frac{\text{全国の性・年齢階級別入院患者数（人）}}{\text{全国の性・年齢階級別人口（10万人）}}$
無床診療所受療率	・患者調査（2023年） 全国の性・年齢階級別一般診療所の外来患者数を社会医療診療行為別統計（2024年）2024年6月審査分、診療所・無床診療所における初再診・外来診療科・在宅医療等算定回数で按分した無床診療所患者数。住民基本台帳人口（2024年）2025年1月1日現在の性・年齢階級別人口を用いて以下の方法で算出。 全国の性・年齢階級別の無床診療所受療率 = $\frac{\text{全国の性・年齢階級別無床診療所患者数（人）}}{\text{全国の性・年齢階級別人口（10万人）}}$
無床診療所医療医師需要度	・令和2年マクロ需給推計における医師の将来の需給推計における医師需要数を用いて以下の方法で算出。 無床診療所医療医師需要度 = $\frac{\text{マクロ医師需要推計における外来医師需要（人）} \div \text{無床診療所患者総数（千人）}}{\text{マクロ医師需要推計における入院医師需要（人）} \div \text{入院患者総数（千人）}}$

都における医師確保の現状 小児科医師偏在指標

○東京都は全国3位となっている。

都道府県別
小児科医師偏在指標

都道府県名	R0601		R0804		順位差
	小児科医師 偏在指標	順位	小児科医師 偏在指標	順位	
31 鳥取県	171.0	1	173.7	1	0
26 京都府	152.7	2	163.1	2	0
13 東京都	150.4	3	155.8	3	0
05 秋田県	127.9	7	152.7	4	3
39 高知県	134.4	4	150.7	5	-1
19 山梨県	127.3	9	144.7	6	3
20 長野県	120.2	20	143.9	7	13
28 兵庫県	123.9	14	143.0	8	6
42 長崎県	128.5	6	141.8	9	-3
30 和歌山県	130.4	5	140.1	10	-5
16 富山県	125.9	10	140.1	11	-1
10 群馬県	118.0	23	139.0	12	11
18 福井県	124.6	11	137.2	13	-2
37 香川県	122.0	17	136.6	14	3
38 愛媛県	120.0	21	132.0	15	6
29 奈良県	108.7	33	131.8	16	17
25 滋賀県	124.3	12	131.4	17	-5
01 北海道	115.4	24	130.7	18	6
32 島根県	118.0	22	130.4	19	3
33 岡山県	124.3	13	129.3	20	-7
44 大分県	120.4	19	129.1	21	-2
36 徳島県	127.7	8	128.6	22	-14
09 栃木県	109.2	31	127.3	23	8
27 大阪府	120.4	18	127.0	24	-6

都道府県名	R0601		R0804		順位差
	小児科医師 偏在指標	順位	小児科医師 偏在指標	順位	
40 福岡県	122.0	16	126.7	25	-9
15 新潟県	108.7	32	125.4	26	6
21 岐阜県	109.7	29	125.3	27	2
17 石川県	123.8	15	120.5	28	-13
24 三重県	107.9	34	120.5	29	5
14 神奈川県	106.1	35	120.1	30	5
03 岩手県	103.8	37	119.9	31	6
41 佐賀県	113.8	27	118.2	32	-5
04 宮城県	104.6	36	118.2	33	3
07 福島県	98.0	40	117.6	34	6
06 山形県	114.0	26	117.5	35	-9
35 山口県	115.0	25	116.5	36	-11
43 熊本県	110.2	28	114.0	37	-9
02 青森県	109.4	30	113.5	38	-8
34 広島県	101.1	38	111.2	39	-1
45 宮崎県	96.9	41	110.6	40	1
22 静岡県	94.4	46	109.7	41	5
08 茨城県	95.8	42	109.7	42	0
47 沖縄県	95.1	44	108.6	43	1
11 埼玉県	99.7	39	107.3	44	-5
46 鹿児島県	95.3	43	106.1	45	-2
23 愛知県	94.7	45	105.3	46	-1
12 千葉県	93.6	47	104.3	47	0

都における医師確保の現状 小児科医師偏在指標

○都内小児医療圏の全域が全国中位以上であり、島しょは、令和6年1月時点で全国122位であったが、令和8年4月時点で全国3位である。

小児医療圏別
小児科医師偏在指標

都道府県名	圏域名	R0601		R0804		順位差
		小児科医師 偏在指標	順位	小児科医師 偏在指標	順位	
高知県	高幡	219.8	2	1104.1	1	1
長崎県	上五島	156.6	22	661.8	2	20
東京都	島しょ	113.3	122	640.4	3	119
長野県	木曽	132.8	56	522.6	4	52
高知県	安芸	210.2	4	417.1	5	-1
熊本県	芦北圏域	312.0	1	399.0	6	-5
香川県	小豆	179.6	8	273.6	7	1
長野県	松本	199.1	5	253.6	8	-3
石川県	能登北部	151.3	26	226.0	9	17
岡山県	高梁・新見	164.3	14	221.6	10	4
東京都	区東	177.7	10	195.6	17	-7
東京都	区西南	181.5	7	167.5	34	-27
東京都	多摩	127.3	77	136.9	87	-10
東京都	区北	116.8	110	129.7	107	3
岡山県	真庭	67.6	278	59.2	297	-19
千葉県	君津	45.9	299	58.8	298	1
愛知県	海部	58.3	290	58.7	299	-9
埼玉県	中央	58.2	291	58.5	300	-9
愛知県	東三河北部	49.6	298	57.4	301	-3
和歌山県	有田	83.0	238	56.1	302	-64
静岡県	静岡	91.0	208	55.1	303	-95
埼玉県	秩父	89.7	215	53.9	304	-89
福岡県	京築	40.8	302	37.7	305	-3
埼玉県	児玉	30.8	303	24.6	306	-3

上位10位

上位1/3

下位10位

下位1/3

都における医師確保の現状 小児科医師偏在指標

○小児科医師偏在指標の計算要素から分析すると、医師数(B)、年少人口(C)、標準化受療率(C)により変動がみられる。

小児医療圏別
小児科医師偏在指標
(計算要素分析)

						A = B ÷ C ÷ D		B		C		D	
都道府県名	圏域名	時点	順位	順位変動 ※プラス⇒ 順位が上がる	ポジション	小児科医師 偏在指標	変動率	標準化小児科 医師数(人)	変動率	年少人口 (10万人)	変動率	標準化 受療率比	変動率
13 東京都	13201 区北	R0601	110		中位	116.8		424.0		3.681		0.987	
13 東京都	13201 区北	R0804	107	3	中位	129.7	111%	438.5	103%	3.496	95%	0.967	98%
13 東京都	13202 区東	R0601	10		上位	177.7		597.7		3.001		1.121	
13 東京都	13202 区東	R0804	17	-7	上位	195.6	110%	622.8	104%	2.894	96%	1.100	98%
13 東京都	13203 区西南	R0601	7		上位	181.5		847.0		4.152		1.124	
13 東京都	13203 区西南	R0804	34	-27	上位	167.5	92%	729.7	86%	3.971	96%	1.097	98%
13 東京都	13204 多摩	R0601	77		上位	127.3		662.8		5.151		1.011	
13 東京都	13204 多摩	R0804	87	-10	上位	136.9	107%	667.8	101%	4.833	94%	1.010	100%
13 東京都	13205 島しょ	R0601	122		中位	113.3		1.8		0.029		0.566	
13 東京都	13205 島しょ	R0804	3	119	上位	640.4	565%	1.8	101%	0.025	89%	0.114	20%

【Ⅰ】都における医師の状況

【Ⅱ】都における医師偏在

(1) 医師偏在指標

(2) へき地尺度(令和8年4月)の導入

【Ⅲ】既存施策の状況

(1) 東京都地域医療医師奨学金

(2) 東京都地域医療支援ドクター

(3) 重点医師偏在対策支援区域における経済的インセンティブ

(4) その他

【Ⅳ】今後の動き(制度改革、新規事業等)

(1) 特定機能病院(大学病院本院に対する動き)

(2) 大学病院機能強化推進事業

【Ⅴ】医師の働き方改革

【Ⅱ】 都における医師偏在

医師偏在指標

医師偏在指標は、医師偏在対策の推進において活用されるものであるが、指標の算定に当たっては、一定の仮定が必要であり、また、入手できるデータの限界などにより指標の算定式に必ずしも全ての医師偏在の状況を表しうる要素を盛り込んでいるものではない。

このため、医師偏在指標の活用にあたっては、医師の絶対的な充足状況を示すものではなく、あくまでも相対的な偏在の状況を表すものであるという性質を十分に理解した上で、数値を絶対的な基準として取り扱うことや機械的な運用を行うことのないよう十分に留意したうえで、活用する必要がある。

- ・ 医師数は、性別ごとに20歳代、30歳代・・・60歳代、70歳以上に区分して、平均労働時間の違いを用いて調整する。
- ・ 従来の人口10万人対医師数をベースに、地域ごとに性年齢階級による受療率の違いを調整する。

$$\text{医師偏在指標} = \frac{\text{標準化医師数}}{\text{地域の人口} \div 10\text{万} \times \text{地域の標準化受療率比}(\times 1)}$$

$$\text{標準化医師数} = \sum \text{性年齢階級別医師数} \times \frac{\text{性年齢階級別平均労働時間}}{\text{全医師の平均労働時間}}$$

$$\text{地域の標準化受療率比}(\times 1) = \text{地域の期待受療率} \div \text{全国の期待受療率}(\times 2)$$

$$\text{地域の期待受療率}(\times 2) = \frac{\sum (\text{全国の性年齢階級別受療率} \times \text{地域の性年齢階級別人口})}{\text{地域の人口}}$$

(出典) 性年齢階級別医師数：平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査

平均労働時間：「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」（平成28年度厚生労働科学特別研究「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査研究」研究班）

性年齢階級別受療率：平成26年患者調査 及び 平成27年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

人口：平成29年住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

※患者流入は、流入発生後のデータ（診療行為発生地ベース）を分母で用いることにより、加味している（平成26年患者調査より）

【Ⅱ】 都における医師偏在

医師偏在指標等を用いた医師少数区域等の考え方について①

令和7年11月14日
第7回地域医療構想及び医療計画等に関する
検討会 資料1（一部改）

現状・課題

- 医師偏在指標を用いた医師少数区域等の設定について、
 - ・ 医師偏在指標のみを用いた場合には、山間部にへき地を多く抱えていたり、医療機関のアクセスに時間を要するといった地理的要素が反映されていないことが課題である。
 - ・ 実情をより精緻に反映させるために、可能な限り最新の調査結果を医師偏在指標に用いるべきであるといった意見があった。
- ①人口密度、②最寄りの二次救急医療機関までの距離、③離島、④特別豪雪地帯を項目を用いた「へき地尺度（RIJ）」について、へき地尺度が上位10%の地域で勤務する医師は、他の地域の医師と比較して対応する診療の幅が大きい傾向にある。
- 令和7年度の厚生労働科学研究班により、医師少数区域の設定に活用することを念頭に、より精緻なへき地尺度の検討が進められている。

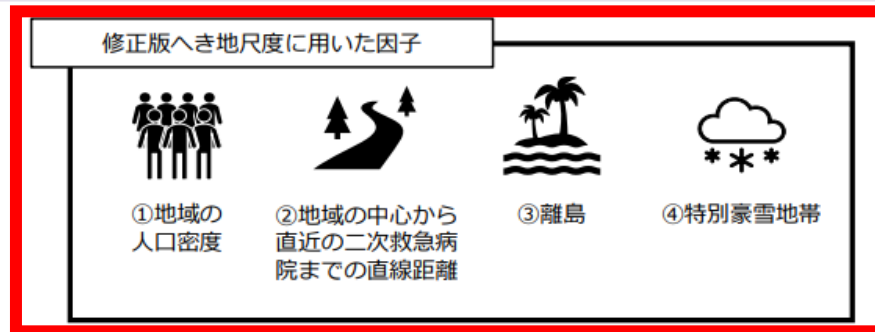
論点

- 次期医師確保計画（R9年度～）における医師少数区域等の設定にあたっては、現行の医師偏在指標のみでなく、へき地尺度（RIJ）についても組み合わせることで、地理的要素を一定程度反映したうえで医師少数区域を設定することとする。
- 具体的には、①現行の医師偏在指標による下位1/3に該当する区域に加えて、②現行の医師偏在指標による中位1/3の区域のうち、「へき地尺度（RIJ）が特に高い区域」を追加し、新たな「医師少数区域」とすることとする。
- へき地尺度が特に高い区域については、例えばへき地尺度が上位10%の区域として設定することとする。₁

【Ⅱ】 都における医師偏在

修正版へき地尺度（mRIJ）について

- へき地医療に関わる関係者（医療専門職、行政職、住民）へのアンケート調査等に基づき、①人口密度、②最寄りの二次・三次救急病院までの直線距離、③離島、④特別豪雪地帯を項目として選定し、日本国内の医療におけるへき地の度合いを示す「へき地尺度（Rurality Index for Japan）」という尺度が2023年に報告されている。
- 令和7年度の厚生労働科学研究班（研究代表者：福岡国際医療福祉大学 松田晋哉教授）より、離島の要件を見直した、新たな修正版へき地尺度（mRIJ）が提案された。



○郵便番号単位で①人口密度、②最寄りの二次・三次救急病院までの直線距離、③離島、④特別豪雪地帯の4因子を算出。

○③離島については、二次・三次救急病院がない離島を1、二次・三次救急病院がある離島を0.5、本州、北海道、四国、九州、沖縄本島及びそれらと橋梁（道路、鉄道）で接続がある地域を0とする。

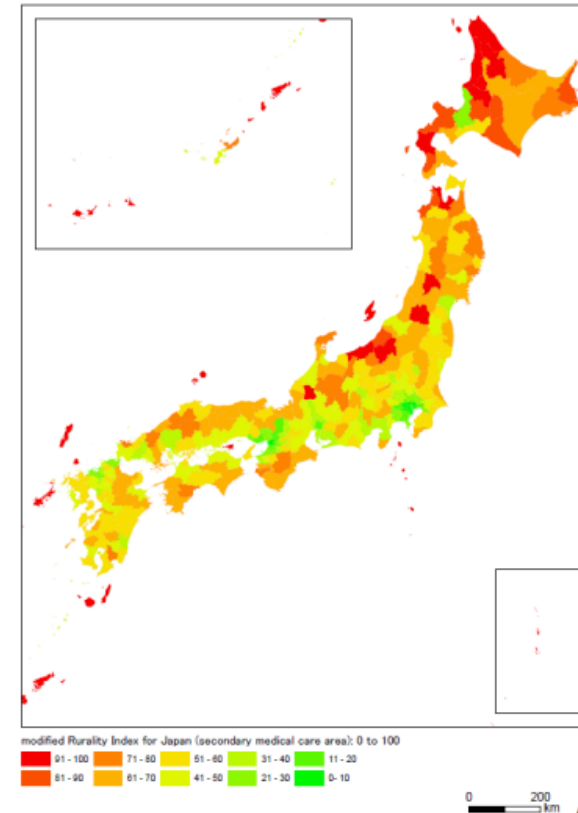
○各因子の数値は正規化する（最小値0、最大値1にスケーリング）

○探索的因子分析を用いて算出した各因子の因子負荷量を各因子の重みとして用い、変換前mRIJ (pre-conversion mRIJ)を以下に示す式で算出。

pre-conversion mRIJ = 人口密度*(-0.28) + 直近の二次もしくは三次救急医療機関までの直線距離*0.45 + 離島*0.44 + 特別豪雪地帯*0.30

○算出したmRIJを二次医療圏ごとに集計し、単純平均を算出する。

＜二次医療圏別修正版へき地尺度＞



【Ⅱ】 都における医師偏在

○東京都は全国1位の医師多数都道府県となっている。

都道府県別医師偏在指標

都道府県名	R601		R0804		順位差
	医師偏在 指標	順位	医師偏在 指標	順位	
13 東京都	353.9	1	358.6	1	0
26 京都府	326.7	2	326.6	2	0
40 福岡県	313.3	3	320.4	3	0
33 岡山県	299.6	4	302.7	4	0
47 沖縄県	292.1	5	300.3	5	0
42 長崎県	284.0	8	298.7	6	2
39 高知県	268.2	15	296.0	7	8
27 大阪府	288.6	7	294.7	8	-1
36 徳島県	289.3	6	293.9	9	-3
30 和歌山県	274.9	10	292.4	10	0
32 島根県	265.1	18	284.8	11	7
17 石川県	279.8	9	283.2	12	-3
41 佐賀県	272.3	11	281.8	13	-2
28 兵庫県	266.5	17	281.1	14	3
31 鳥取県	270.4	13	278.8	15	-2
29 奈良県	268.9	14	277.1	16	-2
46 鹿児島県	254.8	21	276.7	17	4
37 香川県	266.9	16	273.4	18	-2
25 滋賀県	260.4	19	272.1	19	0
44 大分県	259.7	20	270.9	20	0
43 熊本県	271.0	12	270.4	21	-9
04 宮城県	247.3	24	267.8	22	2
18 福井県	246.8	25	265.5	23	2
34 広島県	254.2	22	264.0	24	-2

都道府県名	R601		R0804		順位差
	医師偏在 指標	順位	医師偏在 指標	順位	
38 愛媛県	246.4	26	263.6	25	1
19 山梨県	240.8	27	260.1	26	1
23 愛知県	240.2	28	258.3	27	1
14 神奈川県	247.5	23	254.4	28	-5
16 富山県	238.8	29	252.5	29	0
24 三重県	225.6	34	244.4	30	4
01 北海道	233.8	30	243.6	31	-1
45 宮崎県	227.0	33	243.0	32	1
35 山口県	228.0	32	241.1	33	-1
09 栃木県	230.5	31	238.7	34	-3
21 岐阜県	221.5	35	234.2	35	0
20 長野県	219.9	36	232.6	36	0
10 群馬県	219.7	37	231.5	37	0
22 静岡県	211.8	39	228.8	38	1
07 福島県	190.5	44	222.7	39	5
12 千葉県	213.0	38	221.9	40	-2
06 山形県	200.2	40	216.5	41	-1
05 秋田県	199.4	41	211.5	42	-1
11 埼玉県	196.8	42	207.2	43	-1
15 新潟県	184.7	45	201.7	44	1
03 岩手県	182.5	47	200.4	45	2
08 茨城県	193.6	43	197.5	46	-3
02 青森県	184.3	46	194.4	47	-1

【Ⅱ】 都における医師偏在

○都内二次医療圏では、南多摩、西多摩及び島しょが医師少数区域である。

二次医療圏別医師偏在指標

都道府県名	圏域名	R601		R0804		順位差		
		医師偏在 指標	順位	医師偏在 指標	順位			
東京都	区中央部	789.7751	1	772.354	1	0	上位10位	医師 多数 区域
東京都	区西部	569.0561	2	554.7718	2	0		
島根県	出雲	393.2068	7	417.9739	3	4		
福岡県	久留米	407.7724	4	417.673	4	0		
滋賀県	大津	373.4918	9	399.875	5	4		
東京都	区南部	380.3814	8	399.169	6	2		
京都府	京都・乙訓	401.3792	5	396.9016	7	-2		
東京都	区西南部	413.655	3	396.0518	8	-5		
千葉県	安房	322.6144	31	383.1297	9	22		
鹿児島県	鹿児島	348.9683	15	381.79	10	5		
東京都	北多摩南部	312.523	32	318.3829	40	-8	下位10位	医師 少数 区域
東京都	区西北部	295.8496	42	314.3916	43	-1		
東京都	区東部	307.6313	35	292.978	54	-19		
東京都	北多摩西部	254.4403	69	251.1008	85	-16		
東京都	区東北部	216.429	116	216.2384	148	-32		
東京都	北多摩北部	196.3663	176	209.8243	172	4		
東京都	南多摩	164.5957	255	165.0552	282	-27		
東京都	西多摩	138.1022	314	143.628	317	-3		
北海道	北渡島檜山	112.6369	328	134.5926	321	7		
青森県	上十三地域	139.5844	310	134.1966	322	-12		
茨城県	日立	140.3404	308	132.3046	323	-15		
茨城県	常陸太田・ひたちなか	140.2532	309	130.4241	324	-15		
岩手県	釜石	107.7514	330	129.6076	325	5		
北海道	日高	152.0116	286	129.0275	326	-40		
岩手県	宮古	134.5335	318	128.3132	327	-9		
東京都	島しょ	131.5721	320	126.1839	328	-8		
北海道	根室	116.6122	327	124.5085	329	-2		
静岡県	賀茂	144.3701	301	122.8758	330	-29		

【Ⅱ】 都における医師偏在

○医師偏在指標の計算要素から分析すると、①医師の増加(A)、②人口の減少(B)、③受療率を上げる(C)についての対策が考えられる。

二次医療圏別 医師偏在指標 (計算要素分析)

都道府県名	圏域名	時点	順位	変動順位 ※プラス⇒ 順位上がる	ポジション	A=B÷C÷D		B		C		D		へき地 尺度	順位	ポジション
						医師偏在 指標	変動率 (%)	標準化 医師数 (人)	変動率 (%)	2025.1.1時 点人口 (10万人)	変動率 (%)	標準化 受療率比	変動率 (%)			
13 東京都	1301区中央部	R0601	1		上位	789.8		10715.6		9.27		1.46				
13 東京都	1301区中央部	R0804	1	0	上位	772.4	98%	11255.4	105%	9.75	105%	1.49	102%	-0.02118	7	上位
13 東京都	1302区南部	R0601	8		上位	380.4		3308.2		11.40		0.76				
13 東京都	1302区南部	R0804	6	2	上位	399.2	105%	3470.4	105%	11.53	101%	0.75	99%	-0.02305	3	上位
13 東京都	1303区西南部	R0601	3		上位	413.7		4807.5		14.32		0.81				
13 東京都	1303区西南部	R0804	8	-5	上位	396.1	96%	4816.3	100%	14.36	100%	0.85	104%	-0.02197	6	上位
13 東京都	1304区西部	R0601	2		上位	569.1		6174.3		12.53		0.87				
13 東京都	1304区西部	R0804	2	0	上位	554.8	97%	6011.1	97%	12.71	101%	0.85	98%	-0.02613	1	上位
13 東京都	1305区西北部	R0601	42		上位	295.8		5047.2		19.51		0.87				
13 東京都	1305区西北部	R0804	43	-1	上位	314.4	106%	5282.5	105%	19.82	102%	0.85	97%	-0.02515	2	上位
13 東京都	1306区東北部	R0601	116		中位	216.4		2401.8		13.71		0.81				
13 東京都	1306区東北部	R0804	148	-32	中位	216.2	100%	2459.4	102%	13.91	101%	0.82	101%	-0.01837	9	上位
13 東京都	1307区東部	R0601	35		上位	307.6		3052.9		14.98		0.66				
13 東京都	1307区東部	R0804	54	-19	上位	293.0	95%	3165.7	104%	15.23	102%	0.71	107%	-0.02273	5	上位
13 東京都	1308西多摩	R0601	314		下位	138.1		675.2		3.80		1.29				
13 東京都	1308西多摩	R0804	317	-3	下位	143.6	104%	631.6	94%	3.74	98%	1.18	92%	-0.00244	66	上位
13 東京都	1309南多摩	R0601	255		下位	164.6		2568.4		14.19		1.10				
13 東京都	1309南多摩	R0804	282	-27	下位	165.1	100%	2462.2	96%	14.20	100%	1.05	96%	-0.00883	28	上位
13 東京都	1310北多摩西部	R0601	69		上位	254.4		1325.6		6.59		0.79				
13 東京都	1310北多摩西部	R0804	85	-16	上位	251.1	99%	1358.6	102%	6.63	101%	0.82	103%	-0.01073	22	上位
13 東京都	1311北多摩南部	R0601	32		上位	312.5		3277.8		10.43		1.01				
13 東京都	1311北多摩南部	R0804	40	-8	上位	318.4	102%	3321.8	101%	10.46	100%	1.00	99%	-0.01464	11	上位
13 東京都	1312北多摩北部	R0601	176		中位	196.4		1417.8		7.45		0.97				
13 東京都	1312北多摩北部	R0804	172	4	中位	209.8	107%	1483.5	105%	7.46	100%	0.95	98%	-0.01314	15	上位
13 東京都	1313島しょ	R0601	320		下位	131.6		28.9		0.25		0.89				
13 東京都	1313島しょ	R0804	328	-8	下位	126.2	96%	30.7	106%	0.23	94%	1.05	118%	0.461083	330	下位

【Ⅱ】 都における医師偏在

○へき地尺度による是正により、他道府県の豪雪地帯や島しょ地域が「医師少数区域」に追加されている。

都道府県名	圏域名	時点	順位	変動順位 ※プラス⇒ 順位上がる	ポジション	A=B÷C÷D		B		C		D		へき地 尺度	順位	ポジション
						医師偏在 指標	変動率 (%)	標準化 医師数 (人)	変動率 (%)	2025.1.1時 点人口 (10万人)	変動率 (%)	標準化 受療率比	変動率 (%)			
全国で最も順位が上がった医療圏																
23 愛知県	2308西三河北部	R0601	295		下位	148.0		625.4		4.84		0.87				
23 愛知県	2308西三河北部	R0804	141	154	中位	218.8	148%	918.2	147%	4.76	98%	0.88	101%	0.000653	137	中位
全国で2番目に順位が上がった医療圏																
20 長野県	2006木曽	R0601	263		下位	162.3		38.9		0.26		0.93				
20 長野県	2006木曽	R0804	133	130	中位	222.8	137%	33.9	87%	0.24	91%	0.64	69%	0.004964	238	下位
全国で最も順位が下がった医療圏																
11 埼玉県	1102南西部	R0601	134		中位	207.0		1090.1		7.35		0.72				
11 埼玉県	1102南西部	R0804	235	-101	下位	187.7	91%	1114.1	102%	7.39	101%	0.80	112%	-0.01231	17	上位
全国で2番目に順位が下がった医療圏																
09 栃木県	0903宇都宮	R0601	132		中位	207.6		1103.8		5.21		1.02				
09 栃木県	0903宇都宮	R0804	217	-85	中位	194.8	94%	1071.1	97%	5.15	99%	1.07	105%	-0.00334	56	上位
へき地尺度が下位のため中位⇒医師少数区域扱いとなる医療圏																
01 北海道	0105後志	R0601	139		中位	205.9		433.0		2.01		1.05				
01 北海道	0105後志	R0804	174	-35	中位⇒少数区域	209.1	102%	418.2	97%	1.91	95%	1.05	100%	0.219443	306	下位
01 北海道	0107中空知	R0601	179		中位	195.1		255.1		1.00		1.31				
01 北海道	0107中空知	R0804	204	-25	中位⇒少数区域	199.0	102%	230.6	90%	0.91	91%	1.28	97%	0.280483	318	下位
01 北海道	0113上川北部	R0601	202		中位	186.6		115.2		0.61		1.02				
01 北海道	0113上川北部	R0804	193	9	中位⇒少数区域	201.6	108%	114.5	99%	0.55	91%	1.03	102%	0.302461	322	下位
06 山形県	0603置賜	R0601	194		中位	189.2		394.0		2.01		1.04				
06 山形県	0603置賜	R0804	219	-25	中位⇒少数区域	194.3	103%	374.5	95%	1.88	94%	1.03	99%	0.304035	324	下位
20 長野県	2010北信	R0601	200		中位	186.7		160.4		0.86		1.00				
20 長野県	2010北信	R0804	147	53	中位⇒少数区域	216.9	116%	171.9	107%	0.82	95%	0.97	97%	0.151833	301	下位
42 長崎県	4206五島	R0601	162		中位	199.7		80.4		0.36		1.11				
42 長崎県	4206五島	R0804	115	47	中位⇒少数区域	233.7	117%	76.1	95%	0.34	93%	0.97	87%	0.257776	313	下位
47 沖縄県	4704宮古	R0601	178		中位	195.3		95.7		0.57		0.86				
47 沖縄県	4704宮古	R0804	146	32	中位⇒少数区域	217.1	111%	103.6	108%	0.57	100%	0.84	97%	0.244887	311	下位